

2021年

北海道地方

10月の天候

2021年11月1日
札幌管区气象台 気象防災部
地球環境・海洋課

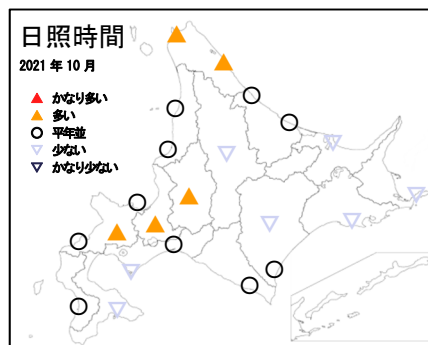
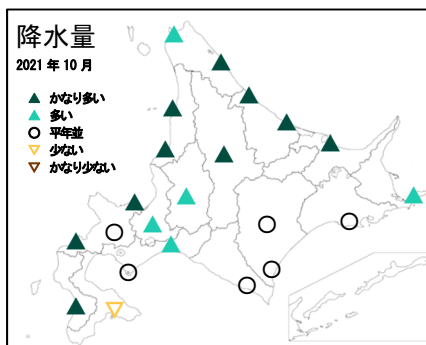
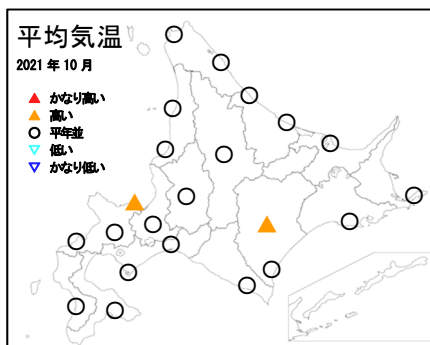
概況

— 上旬は記録的な高温、日本海側とオホーツク海側では低気圧や前線の影響で多雨。 —

10月は、高気圧と低気圧が交互に通過し天気は短い周期で変わったが、日本海側とオホーツク海側では低気圧や前線の影響で雨の降った日が多く、特に、4日と20日は日本海側で記録的な大雨となった所があった。また、上旬は、暖かい空気が流れ込みやすく気温は平年よりかなり高かったが、17日～23日は、上空約1500mに11月中旬並みの寒気が流入したため気温が急激に下がり、初雪や初冠雪を観測した所もあった。

気温は、上旬は平年よりかなり高かったが、月平均気温は平年並だった。降水量は、中旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月降水量はかなり多かった。日照時間は、中旬は平年より少なかったが、下旬は多く、月間日照時間は平年並だった。なお、上旬の北海道地方と日本海側の平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、高い方から第2位の記録となった。

階級分布図



月の統計値(地域平均)

	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.3	0	138	++	100	0
日本海側	+0.2	0	146	++	104	0
オホーツク海側	+0.4	0	181	++	103	+
太平洋側	+0.3	0	106	0	94	-

注) ・数値は、地域内の气象台等(日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点)の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

旬の統計値（地域平均）

上旬	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+1.6	++	109	0	100	0
日本海側	+1.7	++	99	0	101	+
オホーツク海側	+1.5	++	149	+	95	0
太平洋側	+1.4	+	101	0	103	0

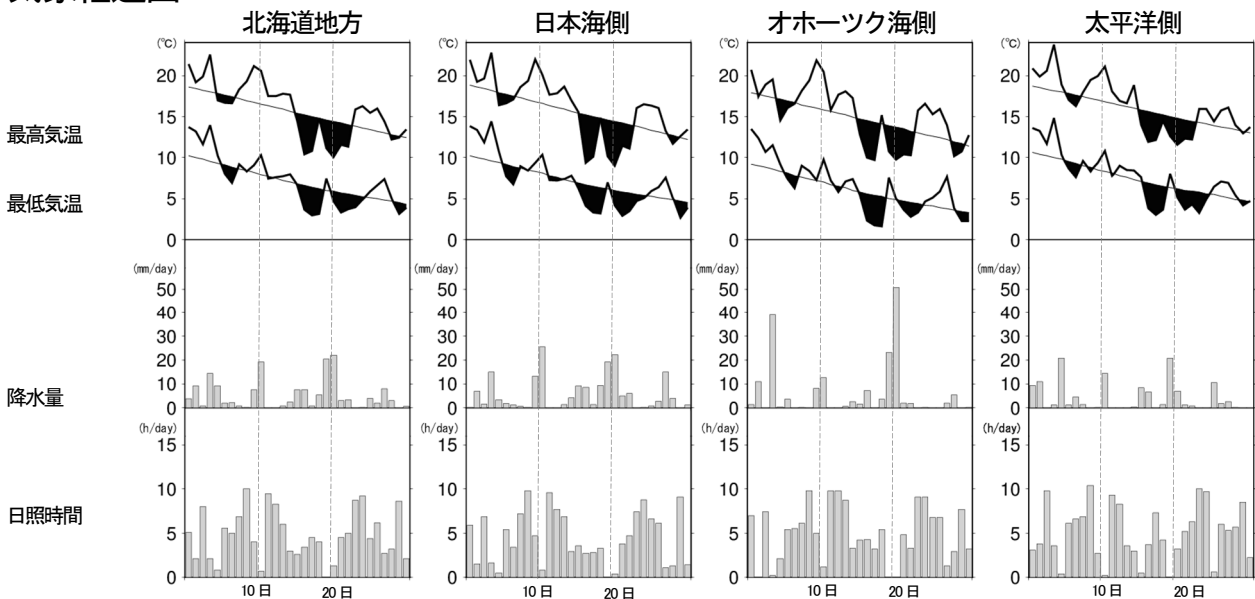
中旬	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	-0.4	0	196	++	84	-
日本海側	-0.6	0	226	++	90	0
オホーツク海側	-0.4	0	208	++	98	0
太平洋側	-0.2	0	153	+	70	--

下旬	平均気温		降水量		日照時間	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	-0.3	0	122	+	119	+
日本海側	-0.5	-	130	+	125	+
オホーツク海側	+0.2	0	210	++	116	+
太平洋側	-0.3	-	67	0	113	+

注) ・数値は、地域内の気象台等（日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点）の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

気象経過図



日別の天気概況

上旬

- 1日: はじめ高気圧に覆われて晴れたが、台風第16号の接近により夕方から雨が降った。
- 2日: 台風第16号から変わった低気圧と気圧の谷の通過により、全道的に雨が降った。
- 3日: 高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、前線や上空の寒気の影響で日本海側では雨の降った所があった。
- 4日: 寒冷前線の通過により広い範囲で雨が降り、日本海側北部では記録的な大雨となった所もあった。日降水量は音威子府で102.0mmなど。
- 5日: 寒冷前線の通過と停滞前線の接近により、太平洋側を中心に雨が降った。
- 6日: はじめ低気圧や上空の寒気の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となり晴れた。
- 7日: はじめ高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、低気圧の接近により夕方から太平洋側を中心に雨が降った。
- 8日: はじめ低気圧の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて概ね晴れた。
- 9日: 高気圧に覆われて全道的に晴れた。
- 10日: はじめ高気圧の張り出しの中で広い範囲で晴れたが、寒冷前線の接近により昼過ぎから雨が降った。日降水量は積丹町美国で53.5mmなど。

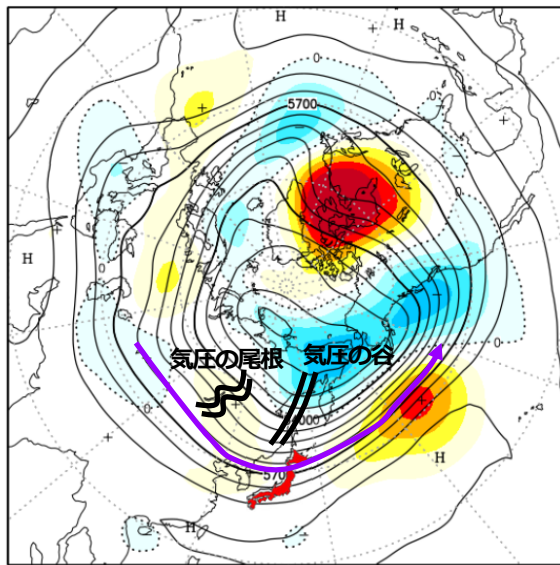
中旬

- 11日: 寒冷前線が通過した影響で全道的に雨が降ったが、夜には高気圧の張り出しの中となって晴れた。日降水量は上ノ国町石崎で58.0mmなど。
- 12～13日: 高気圧に覆われて全道的に晴れた。
- 14日: はじめ高気圧の張り出しの中で晴れたが、前線を伴った低気圧の接近により夕方から雨の降った所があった。
- 15日: はじめ前線の通過により広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かった。
- 16日: はじめ高気圧の張り出しの中で晴れた所もあったが、低気圧の接近・通過により夜には広い範囲で雨となった。
- 17日: 寒冷前線の通過と寒気の影響で全道的に雨や雪が降ったが、昼過ぎからは晴れた所もあった。
- 18日: 高気圧の張り出しの中で太平洋側では晴れたが、寒気の影響で日本海側を中心に雨や雪の降った所もあった。
- 19日: 低気圧を含む気圧の谷の影響で日本海側と太平洋側を中心に雨が降ったが、晴れた所もあった。
- 20日: 低気圧の影響で全道的に雨が降り、日本海側では記録的な大雨となった所もあった。日降水量は積丹町美国で113.5mmなど。

下旬

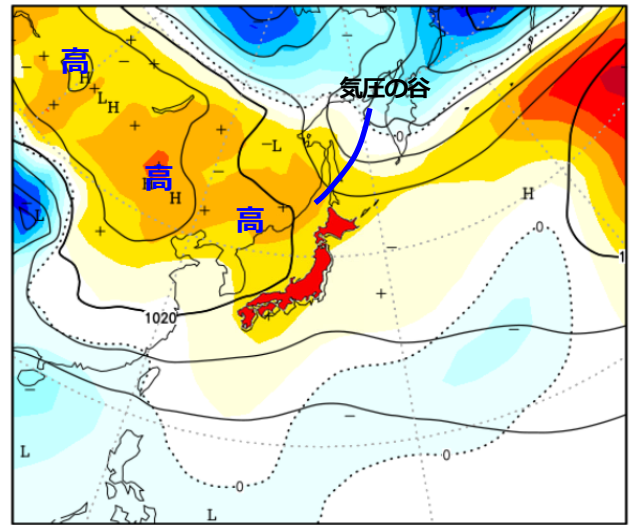
- 21～22日: 気圧の谷と寒気の影響で広い範囲で雨や雪が降ったが、晴れた所もあった。日降水量は21日に西興部で81.5mmなど。
- 23日: 西高東低の気圧配置と寒気の影響で雨や雪の降った所が多かったが、次第に高気圧の張り出しの中となり夕方から晴れた。
- 24～25日: 高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、25日は気圧の谷の影響で日本海側では雨の降った所もあった。
- 26日: 高気圧の張り出しの中となり日本海側では晴れた所が多かったが、前線を伴った低気圧の影響により太平洋側を中心に雨が降った。日降水量は苫小牧で67.0mmなど。
- 27日: 高気圧の張り出しの中となり晴れた所もあったが、低気圧の接近により夕方から雨の降った所が多かった。
- 28日: 低気圧の影響で広い範囲で雨が降ったが、太平洋側では晴れた所もあった。
- 29日: 西高東低の気圧配置の影響で日本海側とオホーツク海側では雨の降った所が多かったが、次第に高気圧の張り出しの中となり夕方からは晴れた。
- 30日: 高気圧に覆われて全道的に晴れた。
- 31日: はじめ高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、低気圧の影響で日本海側では夕方から雨が降った。

10月の大気の流れと地上天気図の特徴



北半球の月平均500hPa高度と平年偏差
(平年値は1991~2020年の平均値)

実線は500hPa高度 (m)、着色は平年偏差 (m)。平年偏差が暖 (寒) 色の領域は平年より高度が高 (低) く、一般に暖 (寒) 気に覆われやすい。上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている所で偏西風が蛇行しており、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強い。



日本付近の月平均海面気圧と平年偏差
(平年値は1991~2020年の平均値)

実線は等圧線 (hPa)、着色は平年偏差 (hPa)。平年偏差の暖 (寒) 色は、平年より気圧が高 (低) い領域。寒色の領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

500hPa (上空約5500m) 天気図

偏西風 (紫実線) は、平年より北寄り強く、北から寒気が流れ込みにくかった。また、バイカル湖付近で気圧の尾根となる一方、東シベリア付近は高度が低く、沿海州付近にかけて気圧の谷となっていた。このため、北海道付近は低気圧や前線の影響を受けやすい時期があった。

地上天気図

大陸から日本の東にかけて気圧が高く、日本付近は大陸から移動してくる高気圧に覆われやすい時期があった。カムチャツカ半島付近からサハリン南部にかけて、気圧の谷となっており (青実線)、北海道付近は前線や気圧の谷の影響を受けやすい時期があった。

月の統計値（地点別）

官署名	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 ℃	平年差 ℃	階級	本年 mm	平年比 %	階級	本年 h	平年比 %	階級
稚内	11.5	+0.2	0	167.5	129	+	151.5	113	+
北見枝幸	10.7	+0.4	0	199.0	156	++	160.4	113	+
羽幌	11.1	-0.1	0	247.0	163	++	131.8	105	0
雄武	10.2	+0.4	0	159.0	172	++	150.9	100	0
留萌	11.0	-0.1	0	208.5	159	++	131.2	106	0
旭川	9.7	+0.3	0	153.5	145	++	116.8	93	-
網走	11.2	+0.3	0	152.0	172	++	148.8	95	-
小樽	12.3	+0.5	+	209.5	170	++	139.4	100	0
札幌	12.5	+0.4	0	150.5	137	+	158.2	108	+
岩見沢	11.0	+0.2	0	135.5	123	+	143.5	104	+
帯広	10.7	+0.4	+	106.0	124	0	153.9	92	-
釧路	11.1	+0.1	0	106.5	94	0	168.0	95	-
根室	12.0	+0.4	0	160.0	127	+	145.6	89	-
寿都	12.5	+0.4	0	232.5	182	++	127.3	105	0
室蘭	13.1	+0.2	0	102.5	101	0	154.4	93	-
苫小牧	12.0	+0.5	0	173.5	153	+	152.3	98	0
浦河	12.3	0.0	0	125.5	107	0	164.8	96	0
江差	13.8	+0.1	0	157.0	149	++	142.2	103	0
函館	13.0	+0.5	0	81.5	77	-	157.0	96	-
倶知安	9.8	+0.1	0	134.5	105	0	135.4	106	+
紋別	11.0	+0.5	0	197.5	224	++	153.7	103	0
広尾	11.5	+0.2	0	133.5	69	0	155.1	94	0

注）・平年値は1991～2020年の30年間の平均値です。

- ・階級の++は平年よりかなり高い(多い、大きい)、+は平年より高い(多い、大きい)、0は平年並、-は平年より低い(少ない、小さい)、--は平年よりかなり低い(少ない、小さい)を示す。
- ・「）」付きの値は欠測を含む。「]」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。
- ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

月統計値の順位値更新一覧（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
10月	なし						

※データは速報値であり、後日変更される場合があります。

お問い合わせ先

札幌管区気象台 気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174